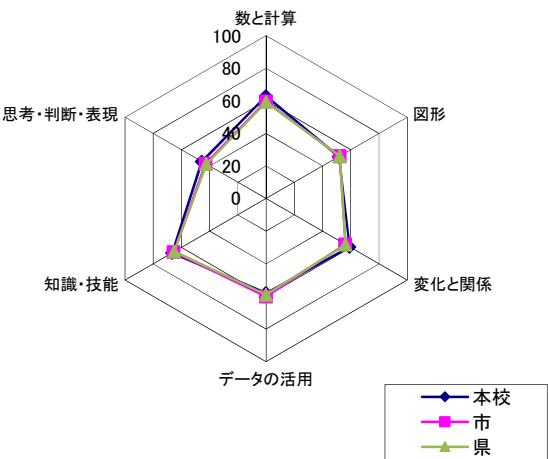


宇都宮市立桜小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.9	59.7	59.2
	図形	51.5	52.1	52.1
	変化と関係	59.1	56.1	56.3
	データの活用	58.0	60.1	58.9
観点	知識・技能	66.6	65.5	65.1
	思考・判断・表現	45.5	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より高い。 ○数直線をもとに、異分母分数の大小関係を考察する問題では、市の正答率よりも6.4ポイント高い。分数の捉え方を授業で丁寧に指導した成果であると考えられる。 ●小数第1位×整数の計算の問題に課題が見られる。	・今後も、図を用いて計算の仕方を考える活動を充実させ、今後高学年でつまづきやすい小数・分数の乗除の意味や計算の仕方について理解を図れるようにする。 ・朝の学習時間や学習がんばり週間の期間に、小テストやステップアップテストを実施し、計算技能の定着を確認しながら、習熟を図っていく。
図形	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○角度の大きさの求め方や面積の単位の関係は市の正答率よりやや高い。 ●ひし形の作図の問題では、市の正答率よりも9.9ポイント下回った。	・作図については、コンパスや定規の使い方を丁寧に指導し、学習課題にくり返し取り組むようにして習熟を図っていく。 ・長さや単位の扱いを授業で丁寧に取り組み、日常生活の中で生かせるように指導していく。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より高い。 ○2つの数量の関係をもとの大きさの何倍になったかを割合で表し、言葉で説明する問題では、正答率が市の正答率を2.2ポイント上回った。授業の中で自分の考えをノートにまとめたり、説明したりする活動を充実させた成果であると考えられる。	・今後も伴って変わる2つの数量関係について、多角的に捉えられるようなものの見方や考え方をできるよう指導していく。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ●2つの折れ線グラフから必要なことを読み取る問題では、市の平均正答率を3.3ポイント下回った。また二次元表の読み取りの理解しているかどうかでは、市の平均正答率を4.3ポイント下回った。	・スマイルネクストドリルを活用し、児童の習熟度に合わせて折れ線グラフの問題に取り組むようにしていく。 ・データから必要なことを読み取る問題では、順序立てて解決していくように、指導する。